

学習内容報告書 フォーマット 1

学校名	佐世保市立宇久小学校
授業者	古賀 宏亮

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

6年「登場人物の関係をとらえ、人物の生き方について話し合おう『海の命』」
～宇久・実践「宇久の未来について提案しよう」に横断させて～

1-2. 学年

6年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

「国語」「宇久・実践」

1-4. 単元の概要

これまで、児童は「未来に残したい宇久の宝」を合言葉に、宇久のよりよい未来の姿について学習してきた。昨年度より、海に力点を置き、「海から学ぶプロジェクト」と題し、探究学習に取り組んできた。4月のオリエンテーションでは、宇久の「良さ」や「課題」、「課題解決のためのアイデア」についての話し合いをワークショップ形式で行い、お互いの考えを交流した。

そこで出た「宇久の特産品開発」というアイデアがきっかけとなり、海水から塩を作る活動に取り組んだ。また、その宇久産塩を使った新しい特産品開発のために、観光協会や修学旅行で訪問した「大村夢ファーム シュシュ」の方に講演をしていただいた。本単元では、海で生きる太一が様々な人物の影響を受けて成長する姿を通して、生きることや自然との関わり方を考えさせてくれる物語「海の命」の学習と、児童がこれまで取り組んできた宇久・実践とをつなげ、物語を自分に置き換えて考え、自分自身の生き方や宇久の海のこれからを考えることを目指した。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

本単元では、宇久の未来について考える宇久・実践の時間に国語科の学習を横断させた単元構成を仕組んでいる。これまでの宇久・実践における学習において、児童は宇久の自然、人、行事と触れ合い、それらは児童の考え方に大きな影響を及ぼしている。このことは「海の命」の主人公・太一が様々な人々や自然との関わりの中でたくましく成長する姿と重なり、この物語を通して、小学校卒証を控えた児童が、自らの6年間の学びを振り返り、何が自分に影響を与え、それから何を身に付け、これからどのように生きていくのかを考えることにつなげる。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・自然の偉大さや自然と共に生きる人々のたくましさに気づき、自分自身の生き方を見つめ直そうとする態度。
- ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる力。

1-7. 単元の展開（全 時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
3	「宇久の未来について考えよう」オリエンテーション	<p>○ 昨年度の活動を踏まえて、宇久の宝や課題を付箋に記入。KJ法で、整理し、これからの学習課題を絞り込んだ。</p> <p>評価：宇久の海の宝や課題に自分なりに気づき、友達と意見を交流させることができたか。</p>
4	シーカヤック体験	<p>○ 昨年度、児童が観光協会に提案したことにより、今年度より宇久でもシーカヤック体験ができるようになった。宇久の海の新しい楽しみ方を味わうと同時に、自分たちの活動が大人を動かし、島に影響を与えることを認識することにつながった。</p> <p>評価：宇久観光協会の取組を知り、今後も宇久のために提案していこうとする意欲をもてたか。</p> <p>外部連携：観光協会</p>
4	海水採取・塩作り	<p>○ 「宇久産塩」作りのために海水を採取し、ろ過、加熱などの処理を経て塩作りを行った。</p> <p>評価：塩作りの工程について理解し、特産品開発に関心をもつことができたか。</p>
4	地域食材を生かした料理	<p>○ 自分たちで作った塩、宇久高生が作った魚醤油、地元食材を使った料理を作る。</p> <p>評価：特産品の使い勝手、活用のしやすさについて、自分なりに評価し、改善に生かそうとしたか。</p> <p>外部連携：宇久高等学校、給食センター</p>
7	宇久の未来について提案しよう	<p>○ 「海の命」の学習やこれまでの活動の振り返りをもとに、これからの宇久がどうあるべきか、提案する。</p> <p>評価：海やふるさと宇久島を愛する気持ち、海の活用方法の具体策を、自分なりに表現することができたか。</p>

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 6時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

太一の見方・考え方の変化をとらえ、作品から伝わってくることについて自分の考えをもつことができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1 前時までの学習を確認する。	○単元のめあてについて確認する。 ○太一に影響を与えた人物、山場での太一の葛藤について振り返る。
2 本時の課題を確認し、本時のめあてを設定する。	
3 太一が瀬の主を打たなかったわけを考え、交流する。	○一人一人の考えを大切にする学習であることを確認する。 ○山場だけでなく、物語全体から理由を想像させる。 ○考えを伝える際は、「主張→理由や根拠→主張」の伝え方を意識させる。
4 作品から伝わってきたことについて伝え合う。	○最終場面の描写から、太一にとっての家族の存在や家族を守ることの大切さに気付かせる。 ○母の描写の変化にも着目させる。 ○宇久の海について新たに考えたことや思ったことがあれば、ワークシートに書き加えさせ、発表の際に伝えるように促す。
5 本時の振り返りを行う。	○太一の見方・考え方は、これまで太一が関わった人物や海に影響を受けていることを確認する。

3. 今回の活動の自己評価

- 宇久・実践「宇久の未来について考えよう～海から学ぶプロジェクト」と国語科の学習を横断させて仕組み、主人公の生き方について学習することを通して、これまでの自分・これからの自分について考えさせるようにしたことで、児童は目的意識や必要感をもって学習することができた。
シーカヤック体験や海水を使った塩作り、地域食材を使った料理など、個々の活動を結び付けたことにより、児童の関心・意欲、問題解決への意識の継続を図ることができた。
- ワークショップでは、付箋を使ったことで一人一人の考えが明確になった。普段の授業から付箋を使うことに慣れていたこともあり、主体的な話し合い活動になっていた。また、児童が自分たちで項目ごとに分けたり、まとめたりすることができるなど、学ぶ力の高まりが見られた。

4. 今後の課題

- 付箋を使うことで話し合いが活発になる一方、ノートには学習の後が残らない。ICT 機器を活用し写真をコピーして児童に返すなどして、ノートに残る手立てが必要だった。
- 自分の意見を主張することはできていたが、人の意見と比べながら聞いたり、相手に質問したりして深めるにはまだまだだった。今後意識させたい視点である。
- 単元を通して、話し合いや考えを友達と交流する機会を多くしたことで、児童が自分の考えを広げ、深めることにつながった。しかし、今後児童数の大幅な減少が予想されており、考えを交流する同年代の相手として、他校への働きかけやオンラインによる交流のための環境整備が必要。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

本校では、教科横断的な単元構成力の向上を目的に、研究を進めてきた。児童がより主体的に学び、目的意識や課題解決の意欲を高めることを主目的に、海洋教育と主に国語科を関連させることで、単元を構成している。

また、主体的・対話的で深い学びのために、児童が自分たちで話し合いを行ったり、考えを整理したりする過程を、重視している。

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。